

市長と話そう会（武雄歴史研究会）

日 時：令和7年4月17日（木）

16：00～17：15

場 所：武雄市役所 4階第1応接室

参加者：武雄歴史研究会 6名



市民のみなさまと市長が直接語り合う「市長と話そう会」第37回は、「武雄歴史研究会」のみなさまと、武雄市文化会館大ホールのことや武雄市の文化をどうつくり育てていくかについて等を幅広く意見交換しました。以下抜粋して掲載します。

○「武雄市文化会館大ホール」について

（参加者）

- ・ 蘭学館が無くなった。代わりに大ホール跡地に武雄の情報発信施設の設置を考えられないか。武雄がどんなところかがわかる施設を。研究会も協力したい。
- ・ 市民から文化力が湧いてこない。ハード(施設)も大事。歴史を勉強、研究する場所が無い。武雄市には2,224点の重要文化財(洋学資料)もあるので、一部だけでも見せることが出来る場所があれば。
- ・ ボランティアガイドとして活動している。武雄のことがわかる施設がほしい。塩田の歴史資料館は小さいが整備されている。武雄にも素晴らしいものがあるので、観光客を連れて行って武雄を紹介できるような施設を。
- ・ 幕末の佐賀は先進的。武雄の蘭学がすごいことをアピールできる場所があれば。

（市長）

- ・ 大ホールについて検討する際に、当時の造った哲学や設計思想の記録が残っていなかったことに愕然とした。これが市史編さんのきっかけになった。
- ・ 未来の人が見たときに、当時の人は何をやっていたのかとならないように、まずは歴史を記録として残して、後世に伝えていくことが必要。
- ・ 昔はみんなで同じものを見る時代だったが、今は変わってきている。つくる文化を大事にしていきたい。
- ・ 皆さんの話には共通して通史という話があり、研究や蘭学の展示場所の話があった。武雄の歴史を見せていくことも大事だが、文化をつくる、育てるということも大事。文化をつくる、育てるという観点でご意見を伺いたい。



○「文化をつくる、育てる」について

(参加者)

- ・橘町では、遺跡情報を HP にアップした。スマホで見ることができるように仕掛けを考えている。拠点として大きなものは要らないので、現地に見に行くきっかけ作りの場所が必要と感じている。
- ・山内、北方も大事にしてほしい。凌風丸(日本初の蒸気船)の雛形を造ったのは山内の大工。各町の良いところを集約して展示できる場所があれば、それぞれの文化力も見直され、文化を育てていく気持ちも育まれるのでは。
- ・最初は、歴史というイメージがあったが、それぞれの町に今あるものや宝を知ってもらい活かす方が良い。例えば、大村市のように通史として見せる方が良いのでは。取り上げ方の工夫が必要と思っている。おつぼ山は、みんなが知っているわけではない。どうすれば興味を持ってもらえるのが課題。
- ・おつぼ山神籠石の通史を単に伝えるのではなく、列石が一周していないのはなぜかという切り口で考えてもらうことが大事。

(市長)

- ・どのようにして歴史や文化を知ってもらうか、皆さんの知恵をいただきながらやっていけば楽しいものが出る。また、いろいろなものにつながっていく。
- ・歴史研究会として、これまで話されたようなことを市民向けにしているのか。

(参加者)

- ・機関紙などは発行しているが、市民向けの取り組みは出来ていない
- ・機関紙(湯カリ)を見直す必要がある。
- ・高校に以前は郷土研究部があった。若い人に興味を持ってもらえるような仕掛けを。

(市長)

- ・若い人に興味を持ってもらうような仕掛けがあるのか。

(参加者)

- ・ギャラリーなどを活用できれば。見せることが出来る場をつくることが大事
- ・50代、60代の人々が歴史を知り始める。この世代でも興味を持ってくれば、下の世代に伝わるのでは。子育てが終わった人を対象としても良いのでは。
- ・中学校の調べもの学習に郷土の部分が加われば。学校の先生向けに話をするのはどうか。
- ・若い人に伝える人を育てることが必要なのでは。知り合いが保育園で歴史の塾をしている。

(市長)

- ・歴史研究会で若い人が興味を引くようなことを考えてほしい。また、そうすれば若い人にそ活躍、活動してもらえるか、みなさんで出来ることを考えてほしい。
- ・歴史研究会のみなさんと市も一緒になって、新しい文化施設(ギャラリーなど)を活用して情報発信や若い世代への仕掛けをやっていければ。当然市も協力していきたい。